

Museum Team
Annual Report
2025



vol.3

森のこども館×松戸市立博物館

はらぶつがんちーら

はくぶつかんチームは？

森のこども館と松戸市立博物館は連携して「はくぶつかんチーム」を結成しました。松戸市内の小・中学生を対象にメンバーを募集し、博物館の学芸員が講師となって、1年間を通じて歴史と文化を自分の手で確かめながら学ぶプログラムに挑戦します。

今年度のテーマは、「かんさつポイントをふやす」です。博物館で展示をみるとき、どんなところに着目すればいいのか。視点が多ければ多いほど、展示をみるのは楽しくなります。毎回の活動で新しい「かんさつポイント」を学んだうえで、あらためて展示をみについてみる、という構成にしました。

また、新しい取り組みとして、今年度から中学生にも参加してもらい、Aチーム（小学生）とBチーム（中学生）に分かれて活動しました。

1年間の活動を通じて、みんなにとって博物館が面白い場所になればいいなと思っています。

令和6年度の活動

第1回	5月18日(日)	「かんさつ」と「きろく」:拓本をとろう
第2回	6月22日(日)	素材のちがい:石の勾玉、土の勾玉
第3回	7月20日(日)	みえないぶぶんを考える:レプリカ法
第4回	12月7日(日)	ちがう道具、同じやくわり:石蒸し料理
第5回	12月21日(日)	じっくり「かんさつ」しよう:展示見学



2025年5月18日(日)

かんさつポイント
こまかいところまで
かんさつしてみよう。

はくぶつかんにある土器は、ひとつひとつもようも形も色もちがいます。

こまかいところまでじっくり「かんさつ」すると、似ているようにみえても、こまかい縄目もよりの向き、線の太さなどにちがいがあることがわかります。



ところで、「かんさつ」してわかったことをずっとおぼえていることはできますか？いつかわすれてしまうかもしれません。あとからふりかえりができるように、「きろく」をとっておくことがたいせつです。

はくぶつかんではメモ、写真、スケッチ、3Dモデルなどいろいろな方法

でモノの「きろく」を作っていますが、今回は土器のもようを「きろく」する拓本にちょうせんしてみました。

しめらせた紙を土器にぴったりはりつけて、墨をつけたたんぽでやさしくポンポンとたたいてあげると、もようがうかびあがってきました。

この方法なら、同じもようを写した「きろく」をいくつも作ることができます。「きろく」をみれば今日みた土器のことも思いだせるし、1つくらいはしおりなどに加工してつかうのもステキですね。



2025年6月22日(日)

かんさつポイント
どのは素材でできて
しるのかみてみよう。

はくぶつかんに^{てんじ}展示されているモノはいろいろな^{そざい}素材でできています。昔^{むかし}から使われていた石、粘土、骨、貝、^{つか}木などの^{いし ねんど ほね かい}道具もありますが、鉄やプラ^{てつ}スチックなど新しい時代になって使^{つか}れるようになった^{そざい}素材もあります。

また、同じ時代の同じような形のモノが別の素材で作られることもあります。例えば、はくぶつかんには石で作^{つく}られた^{おな}勾玉と、粘土を焼いて作^{つく}られた^{おな}勾玉が展示されています。どのよう^{かなが}なちがいがあるのか考えるため、じっ^{つか}さいに作^{つく}ってみることにしました。

^{いし まがたま ゆみ かいてん}石の勾玉は弓でキリを回転させて



^{あな}孔をあけましたが、これはなかなかた^{いし}いへんです。また、石をけずって形を^{かたち}ととのえて、キレイにみがくのはとても^{じかん}時間がかかりました。

一方、土の勾玉は形を作るのもか^{あな たけ}たんんで、孔も竹ぐしですぐにあける^{いっぽう つち まがたま かたち つく}ことができました。

作^{つく}ってくらべてみると、石の勾玉は^{いし まがたま}土の勾玉よりも時間と手間をかけて^{つち まがたま じかん てま}作^{つく}られていることがわかりました。この^{いし まがたま}ことから、石の勾玉のほうが価値が高^{かち たか}かったのではないかと予想できます。^{よそう}



2025年7月20日(日)

かんさつポイント
目でみてもわからぬ
こども考えてみよう。

てんじ
展示されているモノをみてもわ
らないことはたくさんあります。たと
えば、うちがわやうらがわがどうなっている
のかは展示ケースの外からみるだけ
ではわかりません。

にんげんめ
また、人間の目ではみることがむず
かしい小さな部分にもおもしろい情
報がかくされています。

こんかい ぶぶん ほうほう
今回は、みえない部分を見る方法
の1つである「レプリカ法」にちょうせ
んしました。

とき ちい くぼ
土器にはときどき小さな凹みがあり
ますが、これは焼く前のやわらかい粘
土だった時に、何かがおしつけられて



へこんだあとです。レプリカ法は、この
小さな凹みにシリコンを流しこんで
型をとり、何かおしつけられたのかを
しらべる方法です。

もしもイネやアワなどのこく物のあ
とであることがわかれば、土器を作っ
た人たちはイネなどを育てて食べて
いたかもしれない、と予想できます。

今回はイネのあとをつけて焼いた
粘土板をつかって型をとり、ほんもの
のイネと見比べてみましたが、型はほ
んものとそっくりでした。

このように、はくぶつかんのモノは
目ではみえない部分までさまざまな方
法でしらべられているのです。

2025年12月7日(日)

かんさつポイント
道具のやかかり、
使い方をかんがえよう。

はくぶつかんにある道具の使い方
をかんがえてみましょう。たとえば、土器は
料理をするための鍋ですが、現代で
は金属のものがほとんどです。それで
は、土器がまだない時代には、どうや
って料理したのでしょうか。

鍋のない時代には石をつかった料
理の方法があったと考えられている
ので、ためしてみました。

まずは下ごしらえ。肉や野菜を大き
な葉っぱでくるみます。Bチームではす
るどい黒曜石で食材を切ってみて、
金属のナイフと比べてみました。

その間にたき火で石を焼いておき

ます。地面に穴をほり、焼けた石を入
れ、その上に葉っぱでくるんだ食材を
のせ、土でうめてしまいます。これでほ
んとうに料理ができるのでしょうか？



15分ほどしたらほり出して葉っぱ
をひらいてみます。Aチームでは肉もイ
モも少し生焼けでした。Bチームは少
し長めに時間をおいたところ、しっか
り火がとおっていました。

鍋がなくても、石をつかって料理が
できることがたしかめられました。



2025年12月21日(日)

かんさつポイント
かんさつポイントを決めて
展示をみてみよう。

ぜんかい まな
前回までに学んだかんさつポイン
トを活かして、松戸市立博物館の展
示をみにいきましょう!



だい かい
第1回のかんさつポイントは、「こま
かいところまでかんさつしてみよう」
でした。小さな石器の形や土器のもよ
うなど、じっくりかんさつして「きろく」
をとりました。

だい かい
第2回のかんさつポイントは、「どん
な素材でできているのかみてみよう」
でした。みんなが作ったのと同じ、石
の勾玉と土の勾玉、さらにイノシシの
きば つく まがたま つち まがたま
牙で作られたよく似た形の玉が展示
されていました。



だい かい
第3回のかんさつポイントは、「目
でみてもわからないことを考えてみよ
う」でした。種の凹みを探してみまし
たが、なかなかみつかりません。顕微
鏡で土の中にのこされた花粉などを
みられるコーナーもありました。

だい かい
第4回のかんさつポイントは、「道
具のやくわり、使い方を考えよう」でし
た。ちがう時代のものを見比べると、ま
ったくちがう道具もありますが、土器と
きんぞく なべ せっき げんだい ほうちよう
金属の鍋、石器と現代の包丁のよう
に、同じやくわりの道具もみつかりまし
た。

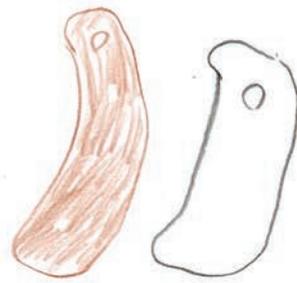


A子-口のがんせう

むかしから犬をかぞくとしていたのにびっくりしました
松戸市には、約3万年前から人がいたことを
知りました。



石のまが玉を作るのはむかしからたけど、
土のまが玉は、ちあらかく作るのがかん
たんだった。



B子-口のがんせう

縄文時代の人(は)割れたりしてしまつた土器
のはへんなどを再利用していて物を大切にしていた
と感じました。

・黒曜石と包丁を比べてみると黒曜石では切
るのがカを入れないと難しかったですか包丁はとても切
りやすかったです。